海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2021/09/06～2021/10/31)

１．勉学の状況

まず秋学期開始前（8 月 23 日～9 月 3 日）に、2 週間にわたって留学生向けに開講されていた、“Curso Intensivo de Español”（スペイン語集中講座）を履修しました。このコースは、コロナウイルスの影響でオンラインでのみ開講されており、日本から Zoom を通して授業を受けていました。授業時間はスペイン時間の平日 14:00～19:00 で、日本時間の 21:00～02:00 だったため、遅くまで頭をフル回転させなければならないことはとても大変でしたが、スペイン渡航前からスペイン語に触れるよい機会になりました。初めにレベル分けのテストがあったのですが、その結果では 3 つのレベル（Inicial, intermedio y avanzado）のうち、一番レベルの高いクラス(Avanzado)に振り分けられました。初回の授業はそのクラスで参加しましたが、他の留学生のスペイン語力の高さと内容の難しさに圧倒されてしまい、レベルを１つ下げて、Intermedio のクラスに参加することになりました。私はコスタリカへ留学していたこともあり、スペイン語を「聞き取る」こと自体はそこまで困らなかったのですが、「話す」ということにはブランクを感じた 2 週間でした。ヨーロッパ人の学生は積極性のある人が多く、私も積極的に発言することを意識して毎日授業に臨んでいました。最終日にテストを受けてその次の日には渡航しました。

渡航後、秋学期開始前に留学生向けのオリエンテーションがあり、履修登録・変更の方法や eGela という授業資料が配布されるサイト（千葉大学の Moodle）の紹介を受けたりしました。

私が秋学期に履修する授業は２つです。１つは留学生向けの秋季スペイン語講座、もう１つは Facultad de Letras（文学部）で開講されている授業です。渡航前は文学部開講科目を２つ履修する予定でしたが、曜日が重複していたため、どちらの授業も初めの 1 週間は受け、１つのみ受講することにしました。

集中コースに引き続きオンラインで行われている “Curso de español de Otoño”（秋季スペイン語講座）は週 2 日、各 2 時間、Intermedio のレベルに参加しています。クラスは集中講座の時よりも少人数で編成されており、1 グループ学生 12 人程度です。Zoom を通して自室から参加しています。授業の中では、2, 3 人のグループワークや全体での口頭発表が毎回行われ、文法事項の学習もあります。授業の課題はそこまで多くありませんが、復習（特に単語）を必ずするようにしています。

もう１つの文学部の授業は “Expresión Oral y Escrita I”（スペイン語の口頭及び筆記による表現）という授業です。これまでは口頭と筆記のコミュニケーションの違いや、スペイン語の性や数、参考文献の書き方について学んできました。9 月中は、オンライン授業のみでしたが、10 月に入り週 1 回ではありますが対面授業が始まりました。週 2 日の授業のうち、1 日は講義形式（全員で対面）、もう 1 日は演習形式（少人数制で受講生のうち 3 分の一 1 が対面）で授業が行われています。講義形式の授業では、先生の話すスピードも内容の進捗もとても速すぎる

上に課題も大変ですが、友達の助けも少し借りながらなんとか頑張っています。一方、演習形式の授業では 4 人前後のグループにランダムで分けられて、その場で提示された課題にグループで取り組みます。わからないことだらけですが、とても興味のある内容ですので、少しずつ吸収していきたいと思っています。

２．生活の状況

この報告書を書いている 10 月末時点では、かなり状況は改善されており、私の気持ちも多少落ち着いているのですが、最初の一カ月間は私にとって、正直とても孤独でつらい期間でした。特に、オンライン授業と一人暮らしが原因だと思います。

私が滞在しているのは、大学のキャンパスの近くにある学生寮の一人部屋で、学生にはバスク大学の学生も多く在住していますが、留学生はほとんどいません。また、サラマンカ大学とは異なり、バスク大学のキャンパスやビトリアの街では日本からの留学生や日本人も見かけることが今のところありません。一日でも早く友達を作りたいと思い、寮のオリエンテーションや、バスク大学で開催されている留学生向けのオリエンテーション（いずれも自由参加）に勇気を出して一人で参加してみたりしましたが、すでにある程度グループが固まってしまっており中々友達はできませんでした。渡航前に、バスク大学のバディープログラムで連絡を取っていたスペイン人１人を除いて、頼ることのできる人がほとんどいない状況で見知らぬ土地で生活する、という経験はこれまでしたことがなかったため、かなり孤独を感じながら毎日を過ごしていました。

一方で、最初から日常的にはそれほど不自由なく生活することができていました。寮の近くにはいくつかスーパーがあるのですが、日常生活に必要なものは揃えることが可能です。また、スペインでの居住許可証を取得するための手続きや、携帯の SIM カードの契約など、ほとんどすべて一人で行わなければならなかったことはとても大変でしたが、サラマンカ大学に留学中の友達にアドバイスをもらったりしながらなんとか無事に終えることができました。

上記のように、最初の一カ月間は様々な面で大変なことがたくさんありましたが、10 月に入り、日常生活の中に少しずつ楽しみや日課となることを作って生活しようと思えるようになりました。例えば、部屋にこもらずに散歩に出かける（日光を浴びて周りの風景を見渡すだけでも、少し前向きな気持ちになれることがわかりました）、近くのバルへ行ってピンチョスを食べてみる（お店の店員さんと少し会話するだけでも気持ちが明るくなります）、スーパーへ買い物へ行く（外国のスーパーは日本と違うものがたくさんあり面白いです）、ブログを開設して留学生活を発信する、初めての自炊生活を楽しむ、毎日日記をつける、等です。

まだまだ慣れないことや大変なことばかりですが、日本にもスペインにも私を応援してくれている人たちがたくさんいることにも日々気づかされています。他の人と私自身を比較して落ち込んでしまうこともありますが、今後も私なりに一歩ずつ前進していきたいと思います。

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2021/11/01～2022/02/28)

１．勉学の状況

12 月末に前期の授業が全て終了し、テスト期間がありました。私が履修していたのは、留学生向けのスペイン語コース（B1 レベル）と“Expresión Oral y Escrita I”（スペイン語の口頭及び筆記による表現）という授業の２つでした。どちらも 6 単位分の授業だったため、授業外の課題もかなり大変でした。1 つ目の授業は授業もテストもオンライン上で行われました。コロナ禍以前は対面で行うことができていたようですが、オンライン上でしか交流ができなかったことは少し残念に思いました。とはいえ、テキストをベースにしながらも積極的にスペイン語を話すことが求められる環境に身を置くことができたことには感謝したいと思います。2 つ目の授業は 10 月の中旬ごろまでは対面とオンライン両方で行われていましたが、その後は全て対面で行われました。この授業ではスペイン語の文法や正書法についてより詳しく学び、学期末にはスペイン語の地域差についてグループ発表、そして記述式試験（電子辞書の使用は認められませんでした）がありました。留学生があまりいない中でスペイン人の学生に混ざって同様の評価基準で授業を受けることには苦労が多かったですが、その分学ぶことの多い授業でした。3 年次論文のテーマにも悩んでいたのですが、この授業で学んだことを参考に執筆することにし、何とか提出することができました。ちなみにバスク大学では正式な前期のテスト期間が 1 月にあるのですが、授業によっては 12 月末に試験が行われることもあるそうで、私が履修していた授業は 12 月末にテストが行われました。

3 年次論文の提出を何とか終えると、1 月の最終週から後期の授業が始まりました。後期は 3 つの授業を履修しています。1 つ目は前期のスペイン語コースより１つ上のレベルのスペイン語コース（B2 レベル）、2 つ目はバスク語コース（入門レベル）、3 つ目は “Segunda Lengua IV: Lengua Inglesa”（第 2 外国語：英語）です。最後の英語の授業のみ対面で、スペイン語とバスク語の授業は Zoom と Google Meet を通して行われています。1 つ目のスペイン語コースはレベルも先生もクラスメートも変わりました。特に前期よりもレベルが上がったことで、予習にも復習にも毎回かなりの時間を割く必要があります。テキストとして使用しているのは B2 レベルのもので、私の知らない語彙が頻出するため、とても勉強になっています。また、テキスト準拠のワークブックも購入したため、補習用として利用しています。2 つ目のバスク語コースはスペイン語で解説が行われている授業です。入門レベルですので、バスク語について何も知らなかった私でも安心して授業に臨むことができています。（後から先生に聞いた話ですが、スペイン語だけでなく英語でも同じコースが開講さているようですので、もし今後バスク大学に留学される方で、英語でバスク語を学びたいという方は、ぜひ担当者の方に問い合わせてみてください。）ご存知の通りバスク州ではバスク語もスペイン語と同様の公用語です。そのため、街中でも様々な場面でバスク語を目にしたり耳にしたりする機会があります。バスク語というその系統関係が

謎である新しい言語とその背景にある文化を実際に現地で学ぶことは、今回の留学前から切望していたことだったため、学ぶことで喜びを感じています。また、授業の一環として月に1回程度（計4回）、他の学生や先生と集まって実際に街の散策をしたりバルへ行ったりするアクティビティ、Excursión（遠足）があります。ビトリア、ビルバオ、サンセバスチャンの3か所で行われ、主に滞在している街の遠足に参加します。2月初旬に1回目が行われ、ビトリアの街を散策したり、カフェでコーヒーを飲みながらお話したり、普段の授業とはまた違った交流をすることができました。バスク語を学び始める前までは訳の分からない文字の羅列としか思っていなかったスーパーでの表記やちょっとした挨拶などが、少しですが意味のある言葉として認識できるようになっていることがとても楽しいです。3つ目の英語の授業は留学前に予定していたものではないのですが、時間割の関係で履修することにしました。履修している学生は6, 7人程度という少人数の授業ですが、その分発言する機会も多く、私にとっては久々に英語を練習する良い機会になっています。プレゼンテーションがあったり、課題があったり、スペイン語同様予習・復習が欠かせませんが努力していこうと思います。

留学期間もすでに残り4カ月ほどになり、色々な面において正直焦りを感じていますが、毎日コツコツ自分のできることに取り組むことが私の今できることだと思います。考えてみれば、スペイン語、バスク語、英語、という好きな語学を学べる時間がたくさんあるということは幸せなことなのかもしれません。もちろん勉強のモチベーションを保ち続ける、ということが難しいときもありますが、他人と比較せず、自分自身と向き合いながら少しずつ成長していきたいです。

２．生活の状況

まず、スペインの郵便事情について少し書いておきたいと思います。私は家族から11月中旬に荷物を送ってもらっていたのですが、それが届いたのは1月末のことでした。特にオンライン上での税関関連の手続きが大変で、何度も書類を送りなおしたりしました。荷物の重量や時期等によって到着までの時間差はあると思いますが、スペインの郵便事業にはあまり期待しない方がよいな、ということを学びました。

年末年始はスペイン人もヨーロッパ圏からの留学生たちも実家に帰って過ごすという人が多く、私はこちらで知り合った日本人女性のサンセバスチャンにあるお宅で一緒に過ごさせていただきました。サンセバスチャンまではビトリアからバスで1時間半ほど、ほとんど初めての一人旅でした。サンセバスチャンはとても暖かくバカンスで来ているとみられる観光客もたくさんいまいした。コロナの感染者数も増加していた時期だったため、感染対策に万全を期し、人混みにはなるべく近づかないようにしました。バスク州ではレストランや公共施設やバル等に入る際、ワクチンパスポートの提示が義務付けられていたため、日本で発行したワクチン接種証明書とパスポートを持参しました。コロナウイルスに対する規制の厳しさは、スペイン国内でも地域差もあるようですがバスク州は他の地域に比べてかなり厳格な規制があり、しっかりとそれを守る施設や住民が多いように感じます。実際にワクチンパスポートがなく店内での飲食を拒否されている人もいました。サンセバスチャンは美食の街やリゾート地として有名な街で、日本

でも有名なバスクチーズケーキの発祥の店だと言われているバルもあります。日本のバスクチーズケーキは少し硬いイメージがあると思いますが、本場のチーズケーキを実際に食べてみると、温かくて柔らかくておいしかったです。フランスが対岸に見えるオンダリビアという街へ行ったり、サンセバスチャン旧市街のバルでピンチョスを楽しんだり、充実した年末年始を過ごしました。スペインでは年越しと同時に鐘の音に合わせてブドウを 12 粒食べるという慣習があるのですが、実際に挑戦してみると結構難しかったです！

1 月の中旬には、サラマンカ大学に留学中の千葉大の友人を訪ねて、サラマンカへ一人旅をしました。ビトリアからサラマンカまではブルゴスでバスを乗り換えて計 5 時間を超える長旅でした。滞在するホテルのオーナーさんと電話で連絡を取ったり、バスを予約したり、全て一人でやらなければならないことは大変でしたが、自分で旅程を決めて自分で行動することは案外楽しいことだと感じました。同じくスペインで過ごしている友人とスペインで再会しサラマンカの街を案内してもらったり、サラマンカ大学のスペイン人学生とのインテルカンビオにも参加させてもらったりしたことで、また前向きな気持ちになりました。

バスク州在住の日本人はかなり少ないようですが、アラベスという女子サッカーチームでプレーされている日本人女性の方とも知り合い、一緒に食事をしたり、試合に招待してもらったりもしました。

後期は私が仲良くしていたイタリア人やフランス人の友人が半年の留学期間を終えて帰国してしまったため少し寂しいですが、またいつか再会できる日が楽しみです。2 月に入り、バスク州でも屋内でのマスク着用以外は大きな規制がなくなりました。3 回目のワクチンも接種することができました。が、まだ大人数でのパーティーに参加したりするのは怖いなと個人的には思っています。対面の授業が今後増えるわけではありませんが、少しずつコロナが落ち着いていけばよいなと思います。4 月の連休や帰国前までの期間を利用して、スペイン北部以外の地域も訪れてみたいと思っています。

ここ数日ではロシアのウクライナ侵攻のニュースを度々目にし、胸が締め付けられる思いです。スペインに危険が及ぶということは直接的にはないと思われますが、ヨーロッパに滞在していることもあり、今回のウクライナ侵攻をより身近に感じています。一刻も早く事態が収束し平穏な日々が世界中の人々に戻ることを願うばかりです。

最後に何枚か写真をご紹介します！もしバスク州を訪れることがあれば、ぜひバル巡りをしてピンチョスを楽しんでみてください。

ビトリアのビルヘンブランカ広場

ビトリアの旧市街

La Viñaのチーズケーキ

私が感動したフォアグラのピンチョス

大晦日のラ・コンチャ海岸

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2022/03/01～2022/06/29)

１．勉学の状況

1 月末から後期の授業が始まり、3 月中旬には中間テスト、5 月中旬に履修していた授業全ての期末テストがありました。中間テストにおいては、スペイン語コースでは文法や作文の問題、バスク語コースでは後期前半の内容全て、英語のクラスはスピーキング（先生と 1 対 1 で与えられたテーマについて話す）とライティングの問題が出題されました。スペイン語とバスク語のコースはオンライン上で試験があり、学部開講の英語の授業は対面での試験でした。３つとも無事に単位を取得することができました。期末テストはもちろん成績に占める割合は大きいのですが、これまでの積み重ねの小テストや中間テスト、提出物のおかげで安心して期末テストに臨むことができました。

バスク語のコースでは 3, 4, 5 月にもそれぞれ 1 度ずつ Excursión（遠足）がありました。遠足、とは言っても学生と担当の先生とで集まって、カフェで雑談する程度でしたが…。ビトリアの学生は少なかったのですが、その分対面で他の学生や先生と話せる機会が多く、参加することができてよかったと思っています。

5 月中旬に試験が終わってからは、個人的に DELE やスペイン語技能検定の勉強をしていました。6 月に入ってからも資格試験の勉強は続けましたが、時間的な余裕が少しあったため、帰国後の進路について考えたり夏のインターンシップについて検討したりしながら過ごしました。

6 月 20 日頃には、文学部の留学生事務所でコーディネーターの方と会い、成績証明書を受け取りました。バスク大学のコーディネーターさんはこの 1 年を通して、履修の相談やメールでの連絡にも親身になって対応してくださったので、とても感謝しています。

２．生活の状況

留学生活後半は留学生の友人たちに恵まれ、イタリア、ドイツ、フランス、ロシア、アゼルバイジャン、コロンビア、スペインなど多くの国の友人とともに過ごす時間が増えました。
3 月は中間テストがあったため、遠出はしませんでしたが、時間のある時にはブログを執筆したり、友人と食事をしに出掛けたりしました。3 月末にはサマータイムが始まり、夜 20 時ごろでもまだまだ明るい、という日々が続きました。

4 月に入り、ビトリアでは 4 月 1 日には雪が降ったのですが、それ以降は少しずつ春らしい気候に変わっていきました。天気が良くて気持ちの良い日には、近くの Parque Olarizu という自然豊かな公園にピクニックをしに行ったりもしました。料理を持ち寄ったり、それぞれの国の伝統的な踊りを踊ったり教えたり、留学ならではの経験もできました。私は日本から持ってきた白玉粉と餡子を使って白玉を作りましたが、予想外にみんな気に入ってくれました。日本の尺八の音色が好きだという友人もいて驚きました。

４月中旬にはセマナサンタ（聖週間）があり、ビトリアでも聖行列があったりしたため、見に行きました。キリスト教の伝統行事だそうですが、今年はコロナの影響で 2 年ぶりの開催となったようです。

5 月は期末テストがあり、勉強も忙しかったのですが、留学の終わりが近づいていたことや天気が良い日が続いていたこともあり、積極的に外出するようにしていました。5 月上旬には自分のデビットカードが 30 万円ほど不正利用されるというトラブルもありましたが、日本のカード会社に連絡して対応してもらうことができました。5 月末には、キーボードを持っている友人の家へ行って、私も含めてピアノが好きな 3 人でピアノを弾き合う会をして、趣味も楽しめる仲間ができました。5 月末にはドイツ人の友人の紹介で、ビルバオに留学中の立教大学の日本人の学生さん 2 人と知り合いました。ビトリアに来たいと言ってくれたので、ビトリアの街を少し案内したり、バルでピンチョスを楽しんだり、同じ日本からの留学生として色々な話で盛り上がりました。もっと早く知り合えたらよかったですが、この出会いにも感謝したいと思います。

6 月 3 日にはバスク大学のお別れセレモニーがあり、サンセバスチャンのキャンパスまで行きました。バスク大学側がビトリアとサンセバスチャン往復の無料バスを用意してくれました。バスク大学の伝統的な踊りも見られたし、お酒やピンチョスまで用意してくれたり、自由時間には友人とともにビーチへ行ったりもしました。ひどい夕立に降られて大変でしたが。

6 月は留学最終月で授業もなかったため、日帰りでパンプローナやゲルニカにも行ったり、次々に帰国してしまう友人たちに会ったりして充実した約 1 カ月間を過ごしました。親しくしていた友人たちの別れは寂しいものがありましたが、世界中にできた友人たちとまたどこかで会える日が楽しみです。

6 月末には退寮し、ビルバオ空港からバルセロナへ向かいました。バルセロナ空港に到着後、空港内で PCR 検査を受け、陰性証明書をオンライン上で取得し、MySOS のアプリに登録しました。念願のサグラダファミリアも見てから帰国することができ、本当によかったです。

コロナ禍での留学は、渡航前も渡航後も想像以上に数多くの困難がありました。しかしそのたびに様々な方々に助けてもらい、この 10 カ月間で貴重な経験・素敵な出会いを沢山することができました。この留学は私にとって間違いなくかけがえのない思い出です。この留学に関わってくださったすべての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

最後に何枚か写真を載せておきます！

① 仲良くしてもらった色々な国の友人たち

② セマナサンタの様子

③サグラダファミリアの外観

④ グッゲンハイム美術館にて

⑤ゲルニカにて